

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 特2-8

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

4 指導過程		指導上の留意点
学習活動		
① ロイロノートの提出箱を使い、やりたいことを事前に集める。	1 はじめの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に司会原稿、提案理由の原稿を用意しておき、児童が自信をもって臨めるようにする。 ○ 議題は『なかよししゅう会をしよう』です。 みんながより仲良くなるために、2学期を振り返りながら遊びましょう。 ○ みんなが楽しめる会にするための遊びを考えましょう。その後、その会を進めるために必要な係を考えましょう。 ○ 「何をやりたいか」事前に考えたことを「みんなが楽しめるか」という視点で吟味させる。 ○ 生活班で話し合い、アイデアを短冊に書かせて黒板に貼った後、賛成意見や反対意見を出させ、めあてに沿った内容に絞る。 ○ 十分に話し合ってもまとまらなかった場合は「多数決をとる」「もう一度話し合う」などの方法を助言し、今後の決め方を話し合わせる。 ○ 集会に必要な役割については、生活班の数だけ出させ、生活班で分担できるようにすることで、今後の活動に取り組みやすくする。 ○ 話し合いのめあてに沿った意見を発表することができた児童を紹介し、認めるようにする。
② SKYMENUのポジショニング機能を使い、一人一人が自分の立場をマークし、可視化する。	2 司会グループの紹介	
	3 議題、提案理由の発表	
③ SKYMENUのポジショニング機能を使い、全員のマークを重ね合わせ、意見の傾向を提示する。話し合いで立場が変わったら、マークも動かす。	4 話し合いのめあてと進め方の確認 (めあてをつかむ)	
	5 話し合い	
	(1) 自分の考えをもつ	
	(2) なかまと対話する	
	(3) まとめる	
	6 決まったことの発表	
	7 先生の話	
	8 終わりの言葉	

3 タブレット活用の有効性について

- ① ロイロノートの提出箱を活用すると、集まってきたアイデアが一目でわかり、共有しやすい。
- ② SKYMENU クラウドのポジショニング機能を活用することで、立場や考えを瞬時に可視化でき、全体の傾向をつかむことができる。
- ③ SKYMENU クラウドのポジショニング機能を活用することで、話し合っている間でも、立場や考えが変わった場合はすぐに変更することができる。また、発言が苦手な児童の考えも反映され、全員の考えで決定することができる。